

# 成長・発達疾患

科目責任者 白石 秀明  
学年 6 学年

## I. 前 文

本科目では小児医学の特徴は、広範な臓器専門領域を含み、小児が成長発達過程にあるために、臓器や系統の障害が他臓器の障害を伴いやすく、全身的な視点に立つ必要があることである。3年生で習得した広範な小児医学の知識を再度整理し、医師となるうえで習得しておくべき重要事項を再確認し、さらに医師国家試験突破に向けての学習の指針となるように、6年生での成長発達の講義を計画し、実施している。

## II. 担当教員

教授 今 高 城 治 (小児科学)  
特任教授 吉 原 重 美 (小児科学)  
特任教授 松 原 知 代 (埼玉医療センター・小児科)  
特任教授 鈴 村 宏 (小児科学)  
准教授 佐 藤 雄 也 (小児科学)  
准教授 小 山 さとみ (埼玉医療センター・小児科)  
講 師 福 島 啓太郎 (小児科学)  
講 師 関 根 佳 織 (小児科学)

## III. 学修の到達目標

- 1) 0歳から青春期に至る小児の正常な成長・発達を説明できる。
- 2) その過程で生じる代表的な疾患と、その原因を述べ、診断・治療について説明できる。
- 3) 種々の疾患では、その鑑別すべき疾患をあげて診察・検査・治療の要点を述べることができる。

## IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 (30分) :

- ・事前の配布資料を基に予習すること。
- ・種々の疾患を学び知識を深めることと同時に、疾患の社会的背景および保護者の心情を理解できるようになるという視点も持って講義に臨む。

事後学習 (30分) :

- ・講義のポイントをノートに整理する。
- ・疑問、理解が難しかった点は、教科書、インターネット等を利用して解決する。
- ・学習した内容を実際の臨床現場に生かす場面をイメージする。
- ・各授業で配布されたレジメをもとに内容をまとめ質問に答えられるようにしておく。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	13	月	7	循環器疾患	小 児 科 学 関 根 佳 織	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
2	7	14	火	7	神経, 運動器疾患	小児科学 今高城治	1
3		22	水	2	新生児疾患, 先天異常	小児科学 鈴木村宏	1
4		22	水	4	成長, 内分泌・代謝疾患	埼玉医療センター小児科 小山さとみ	1
5		22	水	7	膠原病, 免疫疾患	小児科学 福島啓太郎	1
6		23	木	1	アレルギー疾患, 呼吸器疾患	小児科学 小吉原重美	1
7		23	木	2	感染症, 川崎病	埼玉医療センター小児科 松原知代	1
8		23	木	4	小児救急疾患, 悪性腫瘍	小児科学 佐藤雄也	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

講義への出席状況（2/3以上の出席を要する）。

客観的試験を行い、60点以上を合格とする。

#### VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

〔神経, 運動器疾患〕

各論-I-3-BFG, II-5-A~J, IX-3-AD, 5-D, 6-ABD

〔アレルギー疾患, 呼吸器疾患〕

必修-7-D, 12-E・総論-VI-4-B・各論-IV-3-A

〔感染症, 川崎病〕

必修-12-D・各論-III-10-A, XI-5-A, XII-1-A

〔成長, 内分泌・代謝疾患〕

必修-5-D, 7-J, 7-L, 12-K・総論-IV-6-A, 7-A, VI-10-AB・各論-I-4-AC, X-1-A, 7-B, 10-AC

〔新生児疾患, 先天異常〕

総論-V-2-A V-2-B V-2-C 各論-I-1-D, I-3-B~H, I-4-A

〔循環器疾患〕

必修-5-B・必修7-D・必修9-O・必修12-E 総論-III-4-A・IV-5-B・VI-4-G~Q・VII-3-A, VIII-2-B

各論-V-3, 4

〔小児救急疾患, 悪性腫瘍〕

必修-2-C-①②, 5-C-①②, 6-D-⑨, 7-A-①⑤⑥⑦⑨, 7-D-③④, 7-E-②⑤, 7-E-⑧, 7-I-②, 7-L-③, 12-E-①④②②

総論-I-5-D-③, V-9-A IV-9-B-③, VI-9-E-①, VII-1-A-②, VII-3-A-①, VII-3-B-①, IX-3-A-①②

各論-VI-12-C-③ VI-12-E-③ X-4-B-② XII-1-A-②

〔膠原病, 免疫疾患〕

総論-III-10, V-5-A, VIII-1-E-①~④・⑥~⑧ 各論-XI-3, XI-2-F, XI-5-A-②③, XI-2-C-①・④, XI-2-D-⑨

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験後のフィードバックについても随時受け付ける。ただし事前に秘書を通じアポイントをとること。